

プレス発表資料

平成27年4月28日

国立研究開発法人 防災科学技術研究所

eコミュニティ・プラットフォームを 「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」が採用 ～都道府県規模では全国初～

国立研究開発法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、三重大学との協力協定に基づき、三重県・三重大学 みえ防災・減災センターによる災害アーカイブシステム「みえ防災・減災アーカイブ」の構築に協力し、当研究所が開発したeコミュニティ・プラットフォームが採用されました。災害アーカイブシステムとして、都道府県規模の組織がeコミュニティ・プラットフォームを採用したのは全国で初の事例です。

本日公開された「みえ防災・減災アーカイブ」は、過去の災害記録の収集だけでなく、現在の防災情報についても収集し、それらを未来の減災へ活用することを目指しており、誰もがインターネット (<http://midori.midimic.jp>) を経由して利用可能です。

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会，科学記者会，筑波研究学園都市記者会
三重県政記者クラブ

e コミュニティ・プラットフォームを 「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」が採用 ～都道府県規模では全国初～

1. はじめに

国立研究開発法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、三重大学との協力協定（参考1）に基づき、三重県・三重大学 みえ防災・減災センター（参考2）による災害アーカイブシステム「みえ防災・減災アーカイブ」の構築に協力し、当研究所が開発したeコミュニティ・プラットフォーム（参考3）が採用されました。災害アーカイブシステムとして、都道府県規模の組織がeコミュニティ・プラットフォームを採用したのは全国で初の事例です。

本日公開された「みえ防災・減災アーカイブ」は、過去の災害記録の収集だけでなく、現在の防災情報についても収集し、それらを未来の減災へ活用することを目指しており、誰もがインターネット（<http://midori.midimic.jp>）を経由して利用可能です。

2. 「みえ防災・減災アーカイブ」について

「みえ防災・減災アーカイブ」は、三重県・三重大学 みえ防災・減災センターが運営を行います。今回は、戦時中だったため記録の少ない昭和19年東南海地震の体験談・証言の映像を中心に公開されました（図1）。今後、さらに多様な災害記録及び防災情報がアーカイブされて公開される予定です。

図1は、「みえ防災・減災アーカイブ」のウェブサイトのスクリーンショットを示しています。左側にはトップページがあり、ナビゲーションメニュー（トップ、昭和東南海地震体験談・証言、地図で見る災害の歴史、命を守る「防災・減災情報」、アーカイブ検索）と、主要なコンテンツのサムネイルが並んでいます。右側には、特定のコンテンツ（昭和19年東南海地震 体験談（四日市市 小宮 弘正））の個別画面が表示されており、タイトル、概要、著者情報、所在地などの詳細情報が提供されています。

図1：みえ防災・減災アーカイブのトップページ（左）と昭和19年東南海地震体験談・証言の個別コンテンツ画面（右）

3. 「みえ防災・減災アーカイブ」に対する当研究所の貢献

「みえ防災・減災アーカイブ」には以下のような特徴があります。これらは、e コミュニティ・プラットフォームの映像・ドキュメント等の保存及び検索機能と、地図表示機能を活用することで実行可能となりました。

- (1) 映像やドキュメントなどの多様なコンテンツがインターネットを通じて誰もが検索と閲覧が可能 (図 2)
- (2) コンテンツが地図上にプロットできるため、海岸線からの距離や地形の把握が容易 (図 3)
- (3) 将来的に外部のシステムと柔軟に連携することが可能な Application Programming Interface (API) を備えている

みえ防災・減災アーカイブコンテンツ検索

カテゴリを選ぶ 特集 (昭和東南海地震・証言) 地震・津波に関する碑

検索条件を選ぶ
 災害名を指定する
 災害種別を指定する
 旧市町村分類(69市町村)を指定する
 その他

キーワードで検索する

場所を指定する
 都道府県: 三重県 市区町村:

時期を指定する
 To:
 ※日時の期間を指定します。

種類で探す
 写真 動画 音声 文書

この検索サービスは、国立研究開発法人防災科学技術研究所と三重大学との協力協定で開発されたものです。

アーカイブ検索結果一覧

1 - 10/30 項目	タイトル	メタ情報	日時	更新日	著作権者
	昭和19年東南海地震 体験談 (小俣町明野 野村スマ)	詳細ページ	1944-12-07	2015-04-05	三重県・三重大学 みえ防災・減災センター
	昭和19年東南海地震 体験談 (宿田豊 川口祐二)	詳細ページ	1944-12-07	2015-04-03	三重県・三重大学 みえ防災・減災センター
	昭和19年東南海地震 体験談 (芸濃町 伊藤 三枝)	詳細ページ	1944-12-07	2015-04-03	三重県・三重大学 みえ防災・減災センター
	昭和19年東南海地震 体験談 (五ヶ所浦 川村靖夫)	詳細ページ	1944-12-07	2015-04-03	三重県・三重大学 みえ防災・減災センター
	昭和19年東南海地震 体験談 (橿町 高崎洋子)	詳細ページ	1944-12-07	2015-04-03	三重県・三重大学 みえ防災・減災センター
	昭和19年東南海地震 体験談 (一志郡太郎生村 (のちの美杉村) 小林 吉秀)	詳細ページ	1944-12-07	2015-04-05	三重県・三重大学 みえ防災・減災センター

図 2 : 収集されたコンテンツの検索画面



図3：地図表示の画面（上）。個別コンテンツの位置確認画面（右）

4. 今後の展開

災害アーカイブシステムとして、都道府県規模の組織がeコミュニティ・プラットフォームを採用したのは全国で初の事例となります。当研究所は、今後もeコミュニティ・プラットフォームとそれを活用した防災対策の検討手法に関する研究成果を、地方自治体や大学などが活用できるよう支援して参ります。

また、eコミュニティ・プラットフォームは、ウェブサイト (<http://ecom-plat.jp>) にてオープンソースによる無償公開を行っています。今回の構築への協力で得られた知見については、現在公開されているシステムへ反映させ、さらなる機能向上を行っ

て参ります。

(参考 1) 三重大学との協力協定について

平成 26 年 9 月より、三重大学との協力協定「国立大学法人三重大学と独立行政法人防災科学技術研究所との連携協力に関する協定書」を締結し、e コミュニティ・プラットフォーム等の利活用システムを用いた地域防災活動実施や、災害アーカイブの開発について連携協力することとしています。

(参考 2) 三重県・三重大学 みえ防災・減災センターについて

平成 26 年度より、三重県と三重大学が連携・協力し、防災人材の育成、地域・企業支援、情報収集・啓発、調査研究等に取り組み、三重県における地域防災力の向上に資するために設置されたセンターです。

(参考 3) e コミュニティ・プラットフォームについて

e コミュニティ・プラットフォームは、当研究所が開発している Web を使った情報共有・利活用・発信基盤です。当研究所が 2009 年より開発及び公開を行っており、オープンソースライセンスによる無償公開を行っています。地図機能については、2011 年には地理情報システム学会の学会賞（ソフトウェア部門）を受賞しました。

(参考 4) 関連 Web サイト

- 災害リスク情報の利活用に関する研究プロジェクトウェブサイト：<http://risk.bosai.go.jp/>
- 「e コミュニティ・プラットフォーム」ウェブサイト：<http://ecom-plat.jp>